

生物多様性の保全+ α による

地域の自然を活かす 企業づくり

— 豊かで持続可能な社会&企業を目指して —

生物多様性とは

「生物多様性」とは、地域に固有の自然があり、それぞれに特有の生き物がいること、そして、それぞれがつながっていることです。

ところが現在、我々人間の無秩序な活動によって、各地の自然が破壊され、そこに住む生き物が絶滅の危機に瀕しています。

われわれ人間も例外ではありません。今後も、人間が存続するためには、いますぐに生物多様性を保全し、持続可能な社会を実現しなければなりません。

そのために企業は何をすればよいのでしょうか？



企業活動はさまざまな場面において、生物多様性から恵みを受け、また影響を与えています。

企業と生物多様性との関わり

現在、私たちの暮らしに必要不可欠な食料、工業製品、サービスなどのほとんどが企業活動によって提供されています。そして、企業によって提供されるこれらのはくは、生物多様性の恵みによってもたらされています。例えば米や魚などの生物資源、研究・開発のためのヒント、観光サービスのための自然景観、事業活動で排出した水やCO₂の浄化吸収機能などがあります。また、それと同時に企業の活動は、原材料調達や土地利用による生息地の分断、輸送の際の外来種拡散、鉱物資源の採掘や事業場の操業による水質汚染など、生物多様性に多大な影響を与えています。



豊かで持続可能な社会&企業を目指します。その方法は、地域の自然を活かすことです。

企業と地域の生物多様性

これまで地域の自然は、県や市町村などの地方自治体や、地域のNPOによって保全されてきました。そして、そこに立地する企業は、地域の自然をあたり前のように利用し、ややもすれば、生物多様性に負の影響を与えてきました。しかし、これからは企業も地域の自然に積極的に関わらなければなりません。それでは企業は、地域の生物多様性の保全に取り組みさえすればよいのでしょうか？

そうではありません。企業が目指すべきは、「豊かで持続可能な社会&企業」なのです。

のために、私たちは生物多様性の保全+ α に取り組み「地域の自然を活かす企業づくり」を提案します。

生物多様性には、
①種の多様性（さまざまな生きものがいること）
②生態系の多様性（さまざまな環境があること）
③遺伝子の多様性（それぞれの種の中で個体差があること）
の3つのレベルがあります。

生態系
森・川・山などの
自然のタイプ

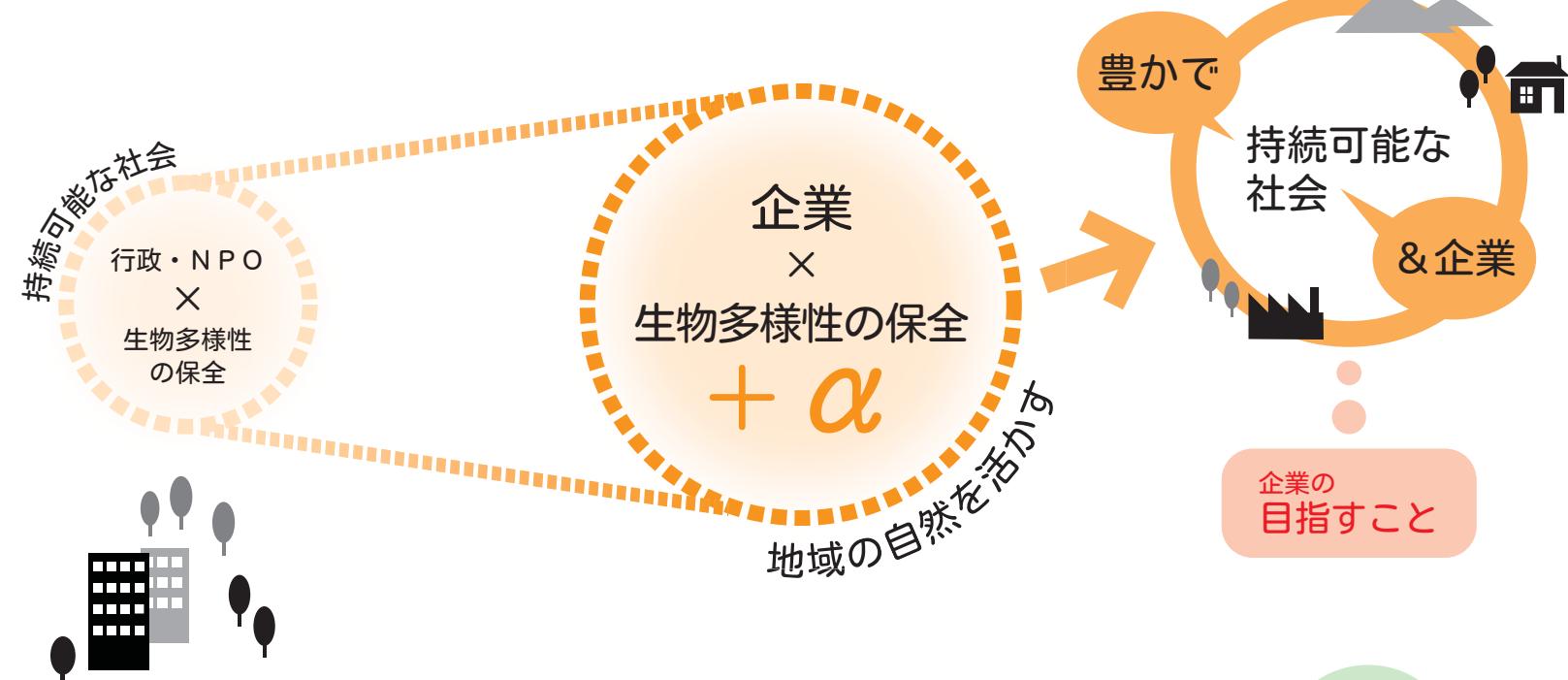
種
たくさんの
生きものの種類

これらの生物多様性が資源を生み出し、
豊かな地球環境をつくりだしています。
生態系はさまざまな種が互いに
関わり合うことで安定し、その恩恵によって人間
の生活は成り立っています。

しかし、人間の活動によって
生物多様性は現在、危機に直
面しています。

遺伝子
個体がもつ
個性

豊かで持続可能な社会&企業の実現のために



なぜ、企業が地域の自然を活かすことが、 豊かで持続可能な社会&企業につながるの？

自然との
関わり

3つ
の理由

希少な
自然資本



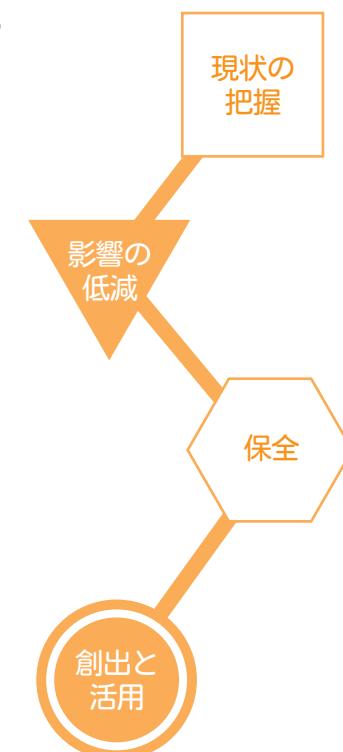
- 勤務する従業員も含め、企業は地域の生物多様性に最も依存しており、地域の自然を活かして新たな恵みを創出すれば、それは直接企業の利益となり、また地域も豊かになります。
- 地域の気候、景観、種、遺伝子の構成は、そこにしか存在しない希少で価値のある自然資本で、それを最も有効に活かせるのは、その地域の企業です。
- 各地にある様々な企業が、その地域の自然を保全し活かすことにより、社会全体が豊かで持続可能となります。

地域から
社会へ

「地域の自然を活かす」ためには？

- 地域の生物多様性の現状を把握
- 企業が地域の生物多様性に与える影響を低減させる
- 周辺地域の自然を保全
- 新たな恵みを創出し、活用する

生物多様性の恵みをこれまでどおり利用していくために、現状の自然を維持、回復させるだけでなく、そこから新たな価値をつくりだす+ α の取り組みをすることによって、地域の自然が活かされます。



生物多様性の保全は、コストではなく、自然資本への投資です。
生物多様性が失われることから生じる損失のリスクを無くし、新しい恵み
をつくりだすことで、そこから生まれるチャンスを活かす。
これが企業による生物多様性への関わり方です。
チャンスを逃さないよう、すぐに事業所周辺の
生物多様性の調査を始めてみましょう！

専門家が現地調査を行い、事業所地域の自然の現状を把握し、企業による生物多様性の保全をサポートします。

地域の自然を知り、守り、活かす

地域の生物多様性の恵みと影響の把握は、生き物調査から始まります。

専門家が、事業所周辺の生き物を調査するとともに、文献調査で地域の生物多様性の特徴を明らかにします。調査結果は、生物リスト、写真表、標本、生物多様性マップとしてまとめ、最終的に「事業所地域の生物多様性報告書」を作成します。報告書では地域の生物多様性の現状、事業所との関わりを示し、今後、企業がどのように地域の自然を保全すればよいのかを提案します。

この調査によって、企業は、事業活動が地域の生物多様性に与える影響を低減し、周辺地域の自然を維持回復させる取り組みを主体となって行なうことが可能となります。地域の生物多様性を保全するための具体的な施策としては、重要な生き物の生息地保護、在来の生き物を脅かす外来種の駆除、生態系ネットワークの構築や環境学習の場としてのビオトープの創出の実施などがあげられます。

私たちは、生き物の専門家としてこれらの保全活動をサポートします。

生き物 調査

生き物調査

専門家が事業所周辺の生き物を調べます。



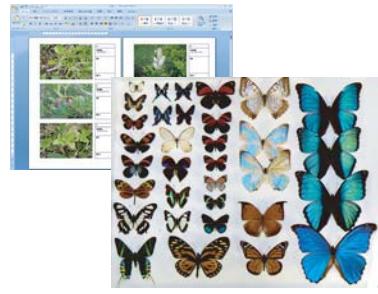
生物リスト

事業所周辺で確認された生き物をリストアップします。

哺乳類	ウサギコウモリ、メウサギ、ニホンリス、ハラキズミ、アカネズミ、タヌキ、キツネ、イタチ、ハクビシン
鳥類	コサギ、トビ、オオタカ、キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
昆蟲類	ニホントトガ、ニホンカナヘビ、アオイシショウ、シマバチ、ヤマカガシ
両生類	ヒキガエル、ニホンマガエル、ツチガエル、トノサマガエル、シユレーゲル、オガエル
魚類	オイカワ、アブラハタ、モソゴ、ドジョウ、メダカ
甲殻類	スマエビ、アリカザリガニ、モズクニ
尾虫類	オニヤンマ、アキアカネ、オオカマキリ、オオムラサキ、カラスアゲハ、カナブン、カブトムシ、ゲンジボタル
軟体動物	タニシ、カワチナ、ニッポンマイマイ
植物	オニグルミ、ロサナギ、コナラ、アセトウガラシ、ガマズミ、エビキ

写真・標本

事業所周辺で確認された生き物のアルバムと標本を作ります。



生物多様性報告書

地域の生物多様性の現状と、事業所との関わり、保全するにはどうすべきかを、報告書としてまとめます。



生物多様性 の保全

環境学習

観察会や勉強会を行って事業所地域の自然への理解を深めます。



ビオトープの創出

事業所に生息環境を作り、生き物を呼びこみます。



外来種の駆除

地域の生き物を脅かす外来種を駆除します。



生息地の保全

重要な生き物の生息地や、脆弱な環境は、管理をして保全します。



地域の自然を
活かすための
+ α

地域と事業所周辺の生物多様性を把握し、保全することにより、企業が地域の自然を活かすための準備は整いました。
地域の自然資源をどう活用するか？
企業のチャンスは、ここから生まれるはずです！